
2 年研究授業計画案

東二番丁小学校 2 年担任 菅野登志子

1 研究教科 生活科

2 共同研究における目指す子供像

- (1) 課題に対応した自分なりの思いや考えをもつ。
- (2) 相手を意識し、順序よく自分なりの思いや考えを表現する。
- (3) 課題に沿って伝え合い、友達のよいところを見つける。

3 生活科で目指す児童像

身の回りの人や地域との関わりや自然に興味・関心を持ち、自分のよさや可能性に気付き、自分の思いや考えなどを適切な方法で表現することができる。

4 児童の実態

2 年生の子供たちはいろいろなことに興味を持ち、面白そう、やってみようという意欲的な姿が見られる。朝の会のスピーチではテーマに沿ってほとんどの児童が自分で決めた話題を、「一つ目は、二つ目は」などの言葉を使って話そうとしている。しかし、聞くときに手遊びなどで集中して聞くことが苦手な様子が見られたり、話し合いでは自分の意見を主張し相手の考えを受け入れるのが難しい様子が見られたりする。生活科の授業を好きだという児童は多く、動植物を育てたり身近な人と交流したりすることも楽しみにしている。1 年間の学校生活で友達や上級生、学校の職員とのかかわりは多くなってきたが、地域の施設や商店などの人々とののかかわりは少なく、関心も薄い。学区の特徴として、身近な自然に触れる機会も少ない。

5 『小学校学習指導要領』における言語活動の位置づけ

本研究は『小学校学習指導要領』生活科第 1 学年及び第 2 学年の 1 目標 (4) 「身近な人々、社会及び自然に関する活動の楽しさを味わうとともに、それらを通して気付いたことや楽しかったことなどについて、言葉、絵、動作、劇化などの方法によって表現し、考えることができるようにする。」に基づいて行う。

6 研究授業計画

- (1) 体験活動を通して「見つける」「比べる」「まとめる」などの学習活動を工夫することで、気付いたことを基に考え進んで意見を交流させる授業。
- (2) 地域の人々と関わる活動での視点を明確にして人々の思いや願いに気付かせ、気付いたことを交流し友達の考えと自分の考えと比べたり見直したりして、確かな学びにつなげる授業。

7 授業技術課題

- ・児童の考えを引き出すために、考える視点を明確にした分かりやすい発問を工夫する。
- ・児童が活動や発表に集中して取り組めるような学習形態や場の設定を工夫する。